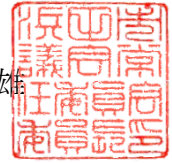


令和 7 年 9 月 25 日

浜田市議会議長 笹 田 卓 様

産業建設委員会
委員長 川 上 幾 雄



取組課題に関する報告

本委員会は、下記のとおり取組課題に関する調査を終えましたので、委員会条例第 39 条の規定に基づき、報告します。

記

- 1 期間 令和 6 年 4 月から令和 7 年 9 月まで
- 2 調査事項
 - (1) 道の駅ゆうひパーク浜田の問題について
 - (2) 地域小売店の問題について
 - (3) ゼロゼロ融資の問題について
 - (4) 小規模農家への支援について（令和 6 年 9 月追加）
 - (5) 建設業の問題点と課題について（令和 6 年 9 月追加）
- 3 目的
 - (1) プロポーザル方式で次期の経営者を公募するに当たり、その仕様書への反映を希望する内容を検討し、市に提案するため
 - (2) 地域の小売店の激減は、その地域で生活が困難になるが、もはや山間部だけでなく、町なかにおいても買物困難地域があることから、小売店を守り、市民の生活を守るための対策について調査するため
 - (3) コロナ禍で行われた、中小企業に対するゼロゼロ融資の返済が始まっているが、厳しい現状があるとのことから、議会として対応できることを模索するため
 - (4) 小規模農家の多い当市において、人手不足だけでなく農

業機器等の修繕や購入に苦慮されており、支援を求める声があることから、実態を把握し必要な施策を検討するため

(5) 浜田市内の建設業者から聞き取りした、各地域の建設業が抱える課題や問題点を解決するため

4 報告書 別添のとおり

以上

1 道の駅ゆうひパーク浜田の問題について

(1) 調査目的

プロポーザル方式で次期の経営者を公募するに当たり、その仕様書への反映を希望する内容を検討し、市に提案するため

(2) 委員会による取組

○他県の道の駅への先進地視察

- ・千葉県木更津市 道の駅うまくたの里（令和 5 年 1 月）
- ・広島県安芸高田市 道の駅三矢の里あきたかた（令和 5 年 11 月）
- ・鳥取県鳥取市 道の駅西いなば気楽里（令和 6 年 4 月）

○所管事務調査及び執行部報告事項における委員会での協議

(3) 調査を踏まえた委員会としての考察

現状の道の駅は、施設を当市が購入し無償提供していることにより、経営が上向いていることは周知のとおりで、現状のままでも道の駅としての機能は十分とは言えないが、継続できているように見受けられる。道の駅機能の拡充等を行うため施設を無償で貸し付け、新たな事業者へ運営を任せる計画で重要視したのは、施設購入時の「施設が浜田市民のため」になることであり、事業者の企業利益追求の場となることを望んで賛同したものではない。

施設の新たな管理者へ求めることとしては、以下のとおり。

- ア 夕日の絶景を生かしながら市民が楽しめるような空間の整備
- イ 地元産品の販売を生かした地元貢献と雇用促進
- ウ 石見神楽発祥の地浜田の P R
- エ インフォメーション機能の強化

(4) 今後の対応

執行部からの報告を踏まえ、委員間協議、全議員での自由討議を重ねるなど、市民に理解の得られるような計画で進められるよう、次期の委員会でも注視されたい。

2 地域小売店の問題について

(1) 調査目的

地域の小売店の激減は、その地域で生活が困難になるが、もはや山間部だけでなく、町なかにおいても買物困難地域があることから、小売店を守り、市民の生活を守るための対策について調査するため

(2) 委員会による取組

○他県への先進地視察

- ・富山県高岡市、富山市（令和6年10月）
- ・山梨県甲府市（令和7年4月）

○参考人招致による意見交換（浜田商工会議所及び石中央商工会）

○所管事務調査における委員会での協議

(3) 調査を踏まえた委員会としての考察

小売店の偏在や空き店舗の増加が地域活性化の課題であると商工団体も感じており、対策として検討員会の設立やきめ細やかな相談体制の構築を進められている。また、商店街への支援策も検討されているようであるが、実施は難しいとの見解であった。また、飲食店、喫茶店、大手書店等の閉店、撤退が続く中での大手ドラッグストアの出店は、地域小売店の今後へ水を差すように感じる市民もあったようである。

学生や若者のニーズを生かした空き家、空き店舗、空き地の活用などは検討の価値がある。飛び地商店街、エリア分けやゾーニングによる商店街の魅力化・活性化に向けてグランドデザイン策定のため、協議の場や仕組みを官民で検討する必要がある。

(4) 今後の対応

新たな商店街の形式の模索や買物困難者への対策、コンパクトシティを見据えた浜田駅周辺活性化へ向けた取組など、次期の委員会でも注視されたい。

3 ゼロゼロ融資の問題について

(1) 調査目的

コロナ禍で行われた、中小企業に対するゼロゼロ融資の返済が始まっているが、厳しい現状があることから、議会として対応できることを模索するため

(2) 委員会による取組

- 参考人招致による意見交換（浜田商工会議所及び石中央商工会）
- 所管事務調査における委員会での協議

(3) 調査を踏まえた委員会としての考察

全国的には大きな問題として取り上げられていたが、当市においては、事業者がそのように感じていないようであるとともに、融資の活用には返済にリスクが伴うことから、慎重になっている事業者が多いと感じた。

一方、調査の中で、コロナ過からの回復の遅れなどを要因とする空き店舗の増加には事業承継の不備に問題があることを聞き取ることができた。

(4) 今後の対応

ゼロゼロ融資自体に大きな問題はないが、事業継承に対する取組は調査の必要があると考えるため、次期の委員会で検討されたい。

4 小規模農家への支援について

(1) 調査目的

小規模農家の多い当市において、人手不足だけでなく農業機器等の修繕や購入に苦慮されており、支援を求める声があることから、実態を把握し必要な施策を検討するため

(2) 委員会による取組

- 浜田・金城・三隅地区の小規模農家への意見聴取
- 地元選出国會議員との意見交換（令和 7 年 4 月）
- 所管事務調査及び執行部報告事項における委員会での協議

(3) 調査を踏まえた委員会としての考察

農業への支援は大規模・認定農家へ偏っているように見受けられていたが、令和 7 年度当初予算では若干の改善が図られたことでの評価もあるが、新規事業での柔軟な対応を要望する声も出ていた。また、天候不順や高温障害、水稻では乾田直播や再生二期作への取組、もうかる農業、食料自給率の引上げ、小規模農家の役割などに対する課題は多くある。

課題を一度に解決することは困難だが、小規模農家機械整備支援事業補助金の実態調査、集落営農組織への聞き取り、兼業農家への新たな支援策を目的とした先進地視察、農地利用構想マップ作成事業の進捗管理、中山間地域活性化のための共通事業制度の今後へ向けた協議、農業協同組合との意見交換などを通じて、小規模農家への支援策を一步一步進めることが必要であると考ええる。

(4) 今後の対応

当市の農業産出額は経済的にも重要な要素であるため、地産地消の推進に向け、次期の委員会においても必要に応じて取組課題として検討されたい。

5 建設業の問題点と課題について

(1) 調査目的

市内の建設業者から聞き取りした、各地域の建設業が抱える課題や問題点を解決するため

(2) 委員会による取組

- 各地域の建設業協会との意見交換
- 危険箇所の現地調査（令和 6 年 11 月）
- 委員会代表質問（令和 6 年 12 月）
- 所管事務調査における委員会での協議

(3) 調査を踏まえた委員会としての考察

各建設業協会代表者との意見交換で示された事業不足は、建設業者の減少、従業員の減少と高齢化、建設機具の更新遅れなど、多方面に影響を与えることとなる。災害・緊急時の対応、老朽化したインフラ整備、河川埋塞土砂の除去や道路の除草など、環境整備には建設業者に頼らざるを得ない。また、建設業の維持・存続と技術継承が困難な現状を訴えられ、この問題は深刻であると受け止めた。

委員会として市内の危険箇所の現状を調査したところ、早急に着手すべき箇所が数多く見受けられ、委員会代表質問等で対応を求めたが、限られた予算での対応には遅速があり、求めた結果に届くものではなかった。

各地で災害が多発している一方、当市においては近年甚大な災害が発生していないが、平時のうちに十分な対応をなすべきである。将来負担比率が低い現在、老朽化しているインフラ整備を目的とした「建設業支援 10 年 100 億円計画」策定などの工夫が必要と考える。

(4) 今後の対応

次期の委員会においても上記考察を踏まえ、取組課題として検討されたい。

産業建設委員会

委員長	川	上	幾	雄
副委員長	田	畑	敬	二
委員	村	木	勝	也
	大	谷		学
	小	川	稔	宏
	佐々	木	豊	治
	牛	尾		昭